



2025年 巳年

新年あけましておめでとうございます

組合員・地域の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また日頃よりJAをご利用賜り厚く感謝申し上げます。

さて、昨年も国際紛争の拡大によって多くの方が犠牲となり、豊かな日常にひそむ危うさを感じるとともにその報道に胸を痛める年でありました。国内では能登半島地震や豪雨により多くの人命が失われるなど甚大な被害が発生し、激甚災害となった7月の豪雨では酒田でも住宅・生活インフラや農地などの経済基盤に大きな被害を受け、未だ多くの方が不安な生活をされています。

一方、国内経済は企業活動を中心に消費が増加、プラス成長が続くなど明るさを取り戻しつつあります。酒田でも各種催事への人出も増え、モンテディオ山形の活躍や春に開業を迎えるいろは蔵パークが話題になったほか、酒田港が洋上風力発電基地港湾に指定されその経済効果に期待が寄せられています。

農業生産においては、豪雨により水稻の収穫量が大きく減少したほか、担い手や作業労働力の減少、園芸農業では高止まる生産費によって農業所得が目減りする状態が続いています。

これらの状況のもと、本組合では倒木による園芸施設の損壊が発生している松枯れの対策の強化について緊急要請実施をしたほか、農業所得確保に向け新規就農者支援と作業労働力の確保、資材価格高騰対策と生産費の価格転嫁を重点として取組を進めております。

令和7年も地域と共にあるJAを目指し、欠くことのできない食糧生産の一端を担う組織として信頼される存在であり続けるよう役職員一同努力してまいります。

今年一年、組合員・地域の皆様にとりまして幸多き年となりますことをご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



代表理事組合長
五十嵐良弥

そでうら産
さといも

“莊内元禄”

今が旬です

JAそでうらでさといもを取扱うようになったのが平成28年のことです。

当初は農協の施設(実験農場)内での試験的栽培でしたが、翌年に生産者2名からスタートしました。9年をかけて現在は生産者32名となり作付面積は470アールまで増え、砂丘地栽培のさといもということで認知度は上がっています。日本各地の市場で取引されているJAそでうらのさといもは令和4年には「莊内元禄」として商標登録され流通しています。

毎年さといもの出荷は11月から始まり、一冬かけての生産者の冬仕事として定着してきています。

「莊内元禄」はイオン系スーパーで購入できます。



12月に入り大阪・仙台の地でそでうら産さといも「莊内元禄」の宣伝活動を行ないました。大阪では東果大阪の60周年記念イベントに参加させていただき、早朝より芋煮のふるまいを行ないながら一般の方々へ販売しました。

仙台ではあおば青果場外の杜の市場での試食販売をおこないました。

東北では各地で芋煮の文化があり、仙台でも仙台風芋煮というものがあるようです。ここ庄内風芋煮のように味付けは味噌で豚肉を使います。庄内・仙台同じような芋煮であり、なじみ深い味でお店に訪れたお客様からは美味しい美味しいと高評価をいただきました。

中には莊内元禄を一度に大量に購入していく方もいて、品物はどんどん無くなっていきました。

そでうら産さといもは煮くずれしないなめらかな食感・食味の良さが売りのさといもです。

さといもと言えばどうしても芋煮を連想してしまいがちですが、芋煮だけでなく煮物、揚げ物などいろんなレシピで皆様の食卓へ“さといも”をご招待ください。



美味しく食べるレシピ裏面をご覧ください

